

# ア. (独) 国立病院機構南岡山医療センターの具体的対応方針の再検証について

<p>① 2025年を見据えた自医療機関の役割 (周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等はこのことに記入)</p>	<p>② 医療機能の方向性</p>	<p>③ 2025年機能別病床数</p>	<p>地域医療構想調整会議における再検証の結果</p>																																																								
<p>&lt;現状&gt; 15診療科 (内科・脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、小児科、小児神経科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科)、許可病床数400床 (一般375床、結核25床)、H30年度病床稼働率82.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急性期より回復期へウエイトを移して地域包括ケアシステムの一翼を担うとともに、地域の救急を担い住民に安心安全な医療を提供する。</li> <li>セーフティネット系医療 (重症心身障害児 (者)、神経・筋難病) は引き続き広く県内外の入院患者を受け入れられるとともに、短期入所、通所事業、レスパイト入院の提供を行う。</li> <li>神経・筋難病は他院では対応困難な患者や人工呼吸器管理の必要な重度患者を受け入れる。</li> <li>地域における救急医療の提供、地域包括ケアシステムにおいて在宅療養患者が急性増悪した場合の入院診療の提供を担う。</li> <li>アレルギー、結核の拠点病院機能を担う。呼吸器疾患の専門的医療を行う。</li> <li>セーフティネット系医療を急性期医療と一体として行うことで安定的な医療の提供を行っていくため、急性期機能の維持が必要である。</li> </ul>	<p>5 疾病・5 事業・在宅医療等で担う役割</p> <table border="1"> <tr> <td>がん</td> <td>心血管疾患</td> <td>救急</td> <td>小児</td> <td>同健期</td> <td>働き場</td> <td>研修・派遣機能</td> <td>糖尿病</td> <td>精神疾患</td> <td>在宅</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>・A項目の9領域、B項目の6領域については診療実績等の大幅な増加を今後も望めないため、これまでどおり近隣の高度急性期・急性期を担う病院との連携を行う。</p>	がん	心血管疾患	救急	小児	同健期	働き場	研修・派遣機能	糖尿病	精神疾患	在宅	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<table border="1"> <tr> <td>高度急性期</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>95</td> <td>57</td> <td>57</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td>60</td> <td>50</td> <td>76</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td>220</td> <td>253</td> <td>237</td> <td>237</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>375</td> <td>360</td> <td>370</td> <td>370</td> </tr> <tr> <td>結核</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>許可病床数計</td> <td>400</td> <td>385</td> <td>395</td> <td>395</td> </tr> </table> <p>・2025年にむけて急性期機能を62床縮小し、回復期機能を40床、慢性期機能を17床増やし、5床を病床削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアシステムの一翼を担うとともに、地域の救急を担い住民に安心安全な医療を提供すること及びセーフティネット系医療を急性期医療と一体として行うことで安定的な医療の提供を行っていくため、急性期機能33床の維持が必要である。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>一部を病床削減合意済み。一部を機能転換で合意。</p> </div>	高度急性期	0	0	0	0	急性期	95	57	57	33	回復期	60	50	76	100	慢性期	220	253	237	237	合計	375	360	370	370	結核	25	25	25	25	許可病床数計	400	385	395	395
がん	心血管疾患	救急	小児	同健期	働き場	研修・派遣機能	糖尿病	精神疾患	在宅	その他																																																	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
高度急性期	0	0	0	0																																																							
急性期	95	57	57	33																																																							
回復期	60	50	76	100																																																							
慢性期	220	253	237	237																																																							
合計	375	360	370	370																																																							
結核	25	25	25	25																																																							
許可病床数計	400	385	395	395																																																							

# イ. 笠岡市立市民病院の具体的対応方針の再検証について

<p>①2025年を見据えた自医療機関の役割 (周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等はここに記入)</p>	<p>②医療機能の方向性</p>	<p>③2025年 機能別病床数</p>	<p>地域医療構想調整会議における再検証の結果</p>																																						
<p>&lt;現状&gt;13診療科(内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、小児科、放射線科、リハビリテーション科)、許可病床数194床(一般160床、療養34床)、H30年度病床稼働率49.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療(へき地医療)を守る視点としての機能</li> <li>・社会的弱者への医療の提供</li> <li>・地域包括ケアシステムでの役割</li> <li>・救急医療</li> </ul>	<p>5 疾病・5 事業・在宅医療等で担う役割</p> <table border="1"> <tr> <td>心臓血管疾患</td> <td>がん</td> <td>脳卒中</td> <td>救急</td> <td>小児</td> <td>産婦人科</td> <td>災害</td> <td>へき地</td> <td>研修・派遣機能</td> <td>糖尿病</td> <td>精神疾患</td> <td>在宅</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>	心臓血管疾患	がん	脳卒中	救急	小児	産婦人科	災害	へき地	研修・派遣機能	糖尿病	精神疾患	在宅	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		<table border="1"> <tr> <td>高度急性期</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>休棟</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>194</td> </tr> </table>	高度急性期	0	急性期	160	回復期	0	慢性期	34	休棟	0	合計	194	<p>・2025年に向けては急性期機能を100床縮小し、慢性期機能を5床増やし、95床を休棟とするとのことだが、休棟95床の具体的な方針が決まっていない。そのため、地域の他の医療機関と引き続き協議を続け、医療機能の方向性、機能別病床数について市としてさらなる検討を行い、具体的になった際に、改めて具体的な対応方針について協議する。</p>
心臓血管疾患	がん	脳卒中	救急	小児	産婦人科	災害	へき地	研修・派遣機能	糖尿病	精神疾患	在宅	その他																													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																														
高度急性期	0																																								
急性期	160																																								
回復期	0																																								
慢性期	34																																								
休棟	0																																								
合計	194																																								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・へき地医療、救急医療、小児医療</li> <li>・人口減少による患者数の減少を見据えて、規模、機能を縮小</li> <li>・高度急性期病院からの患者を受け入れ、回復期機能を充実</li> <li>・近隣病院及び診療所との連携、機能分担</li> <li>・他の病院と連携を図りながらダウンサイジング</li> </ul>			<p>地域包括ケア病床をカッコ書きで記入。急性期の内数。</p> <p>一部を機能転換予定。病床削減と医療機能については継続して検討を行っていく。</p>																																						

## ウ. 井原市立井原市民病院の具体的対応方針の再検証について

<p>①2025年を見据えた自医療機関の役割 (周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等はこちらに記入)</p>	<p>②医療機能の方向性</p>	<p>③2025年機能別病床数</p>	<p>地域医療構想調整会議における再検証の結果</p>																																																																																																																																													
<p>&lt;現状&gt;16診療科(内科、小児科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、循環器内科、泌尿器科、救急科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科)、許可病床数180床(一般120床、療養60床)、H30年度病床稼働率94.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進む地域で、地域包括ケアシステムの中核病院として、病連携、病診連携の促進を進める。</li> <li>・高齢者救急患者が増加している地域で、井原市内唯一の急性期病院として役割を果たす。</li> <li>・呼吸器内科医、産科医等、不足する診療科の整備を行う。</li> </ul>	<p>5 疾病・5 事業・在宅医療等で担う役割</p> <table border="1" data-bbox="651 824 1109 1361"> <tr> <td>がん</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>心血管疾患</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>周産期</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>災害</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>へき地</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>研修・派遣機能</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>糖尿病</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>精神疾患</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>在宅</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>・2025年に向けて地域住民の健康福祉を守るための医療提供体制を引き続き確保する。</p>	がん	○	○	○	○	○	○	○	○	心血管疾患	○	○	○	○	○	○	○	○	脳卒中	○	○	○	○	○	○	○	○	救急	○	○	○	○	○	○	○	○	小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	周産期	○	○	○	○	○	○	○	○	災害	○	○	○	○	○	○	○	○	へき地	○	○	○	○	○	○	○	○	研修・派遣機能	○	○	○	○	○	○	○	○	糖尿病	○	○	○	○	○	○	○	○	精神疾患	○	○	○	○	○	○	○	○	在宅	○	○	○	○	○	○	○	○	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	<table border="1" data-bbox="496 172 1412 824"> <tr> <td>高度急性期</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>90</td> <td>75</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td>0</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>休棟</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>180</td> <td>180</td> <td>180</td> </tr> </table>	高度急性期	0	0	0	急性期	90	75	75	回復期	0	45	45	慢性期	60	60	60	休棟	30	0	0	合計	180	180	180	<p>・急性期機能45床を既に回復期45床に転換済みである。休棟中の30床は急性期で再開予定。</p> <p>・高齢化が進む地域の医療の要として、救急対応や高齢者の医療を行うため、急性期機能75床は必要である。</p> <div data-bbox="1109 190 1364 459" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>一部を機能転換済み。前回の合意内容で改めて合意。</p> </div>
がん	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
心血管疾患	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
脳卒中	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
救急	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
周産期	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
災害	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
へき地	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
研修・派遣機能	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
糖尿病	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
精神疾患	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
在宅	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
その他	○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																								
高度急性期	0	0	0																																																																																																																																													
急性期	90	75	75																																																																																																																																													
回復期	0	45	45																																																																																																																																													
慢性期	60	60	60																																																																																																																																													
休棟	30	0	0																																																																																																																																													
合計	180	180	180																																																																																																																																													



# 工. 矢掛町国民健康保険病院の具体的対応方針の再検証について

① 2025年を見据えた自医療機関の役割 (周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等はここに記入)	② 医療機能の方向性	③ 2025年機能別病床数					地域医療構想調整会議における再検証の結果
<p>&lt;現状&gt;12診療科（内科、外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻科、皮膚科、形成外科、婦人科、リハビリテーション科、泌尿器科、精神科）、許可病床数117床（一般57床、療養60床）、H30年度病床稼働率89%</p>	<p>5 疾病・5 事業・在宅医療等で担う役割</p>	<p>H29年度病床機能報告書（H29.7.1）※国の調査時点</p> <p>H30年度地域医療構想調整会議【今】</p> <p>R.2.2地域医療構想調整会議【今】</p>	<p>高度急性期</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>・2025年にむけて急性期機能57床、慢性期機能60床で機能別病床数は変更ないが、急性期機能のうち14床は地域包括ケア病床であり、回復期機能を果たしている。</p>
<p>・矢掛町は他の中山間地域と同様に少子高齢化が進み、患者も高齢化しており、地域包括ケアシステムの構築が急務。地域の医療介護ネットワークのハブ機能を持つことが重要な使命。公立病院であり、行政との連携を取りやすい特性を生かし、医療・介護、行政、地域コミュニティとの連携を密にし、地域包括ケアシステムの構築のため、そのまとも役割としての使命を果たす。</p> <p>・地区医師会と連携し、オープニングクリニックを開設。MRI、CTなどの共同利用や患者情報の共有、開業医の在宅看取りの支援を行う。</p> <p>・24時間の時間外・救急対応体制を確保し、救急車の受入要請に応需する。</p> <p>・高齢化が進む中山間地域の医療を支える病院として機能するために、高齢者の治療にも急性期医療が必要である。地域医療維持のために、一定の急性期一般病床数を維持する必要がある。</p>	<p>がん</p> <p>脳卒中</p> <p>救急</p> <p>小児</p> <p>同生期</p> <p>災害</p> <p>へき地</p> <p>研修・派遣機能</p> <p>糖尿病</p> <p>精神疾患</p> <p>在宅</p> <p>その他</p>	<p>57</p>	<p>57</p>	<p>57</p>	<p>57</p>	<p>57</p>	<p>・高齢化が進み、後期高齢者人口が増加する中山間地域の医療の要として、救急対応や高齢者の医療を引き続き行うため、急性期機能57床は必要であり、2025年は現状の病床構成を維持する。</p>
		<p>回復期</p>	<p>0</p>	<p>(14)</p>	<p>(14)</p>	<p>(14)</p>	<p>地域包括ケア病床をカッコ書きで記入。急性期の内数。</p>
	<p>慢性期</p>	<p>60</p>	<p>60</p>	<p>60</p>	<p>60</p>	<p>60</p>	<p>現状維持で合意。</p>
	<p>合計</p>	<p>117</p>	<p>117</p>	<p>117</p>	<p>117</p>	<p>117</p>	